

【開会の挨拶】

折 橋 伸 哉

東北学院大学経営研究所次長・東北学院大学経営学部教授

皆さん、こんにちは。本日は、東北学院大学経営研究所公開シンポジウムにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本来ならば、経営学部長の高橋がご挨拶申し上げるところでございますけれども、授業があります関係で、私、経営研究所次長の折橋が、僭越ながらご挨拶申し上げます。本日は、『地域でつくるものづくり—東北発のオープンイノベーションを目指して—』と題しまして、地方において、産学官が緊密に連携することで、これまでにない新たな価値を生み出し、地域経済の振興へとつなげていくための方策について検討してまいります。本日は、遠方および仙台市内より、地方における産学官連携の推進に携わっておられる3名の講師の先生がたをお招きさせていただきました。

ご報告順に、まずNEC株式会社OBで、山形大学におられます柴田先生は、多賀城市にございます、本学工学部の卒業生でもいらっしゃいます。ついで、一連の自動車産業研究シリーズで、毎年ご登壇いただいております、マツダ株式会社OBで、広島大学の岩城先生。そして、東北大学の鈴木先生にも、ご報告をお願いいたしております。お忙しい中お越しいただき、またご報告を準備いただきまして、大変ありがたく心より御礼申し上げます。また本学経営学部の秋池に、冒頭の報告並びに、パネルディスカッションの司会をお願いいたしております。

少しお時間頂戴いたしまして、当学院大学、経営研究所について簡単に紹介させていただきます。経営研究所は、2009年に経済学部経営学科が独立して、経営学部になるのに伴いまして、それまでございました経理研究所を発展的に改組し、さらに経済学部付属の研究所である東北産業経済研究所からその機能の一部を譲り受けまして、活動を始めました。それ以降は、経理研究所時代から進めてまいりました、会計学関係の研究会に加えまして、二つの研究領域について重点的に研究してまいりました。そのうちの 하나가、自動車産業をはじめとする、地域産業振興についての研究でございまして、本日もその流れのシンポジウムでございます。2008年から、東北地方と自動車産業と題して数年余りに渡って継続的に開催いたしまして、その成果を3年前に同じ表題の著書として上梓させていただきました。岩城先生にも、本日講師をお願いしております、岩城先生にも1章をお書きいただいております。手前みそながら、他地域との比較の視点も入れることができ、幅広い読者にとって有益な書をまとめることができた、自負いたしております。もう一つは、観光産業に重点を置いた、おもてなしの経営学というテーマであり、こちらは旅館やホテルのおかみさん、それから地元の観光協会、そして鉄道会社の関係者をお招きしまして、経営上のさまざまな課題について研究を深めております。こちらも、これまで3冊の書にまとめ上梓をさせていただきます。しかも単に研究のみにとどまらず、これら二つのテーマにつ

いては、それぞれ授業を設けまして展開しております。研究と教育、両面を併せて推進しているというのが、私どもの特徴でございます。本日は既存のものづくり産業では残念ながら、他地域の後塵を拝しております東北地方が、東北発のオープンイノベーションを通じて競争優位を獲得する可能性について、幅広く議論を展開し、多くの知見を得ることができることを期待いたしております。簡単ではございますけれども、経営研究所の紹介等を兼ねまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。